



東西出逢いの地

関ケ原は本州のほぼ中央、北の伊吹山地と南の養老山地・鈴鹿山脈の狭間に位置し古来より東西南北の主要な街道である中山道と北国街道、伊勢街道が交差する、軍事・交通の要衝として栄えてきました。
街道を人々が往来することで、食・生活様式・言葉などの面で江戸を中心とした東国で発展した文化と、大阪や京都など西国で発展した文化の双方が出逢う地となりました。

※記載の内容には説明あります。

文化



関西 向かって右に男雛
ひな人形
日本古来は「左上座」であるため、伝統を重んじる京都を中心に根付いています。



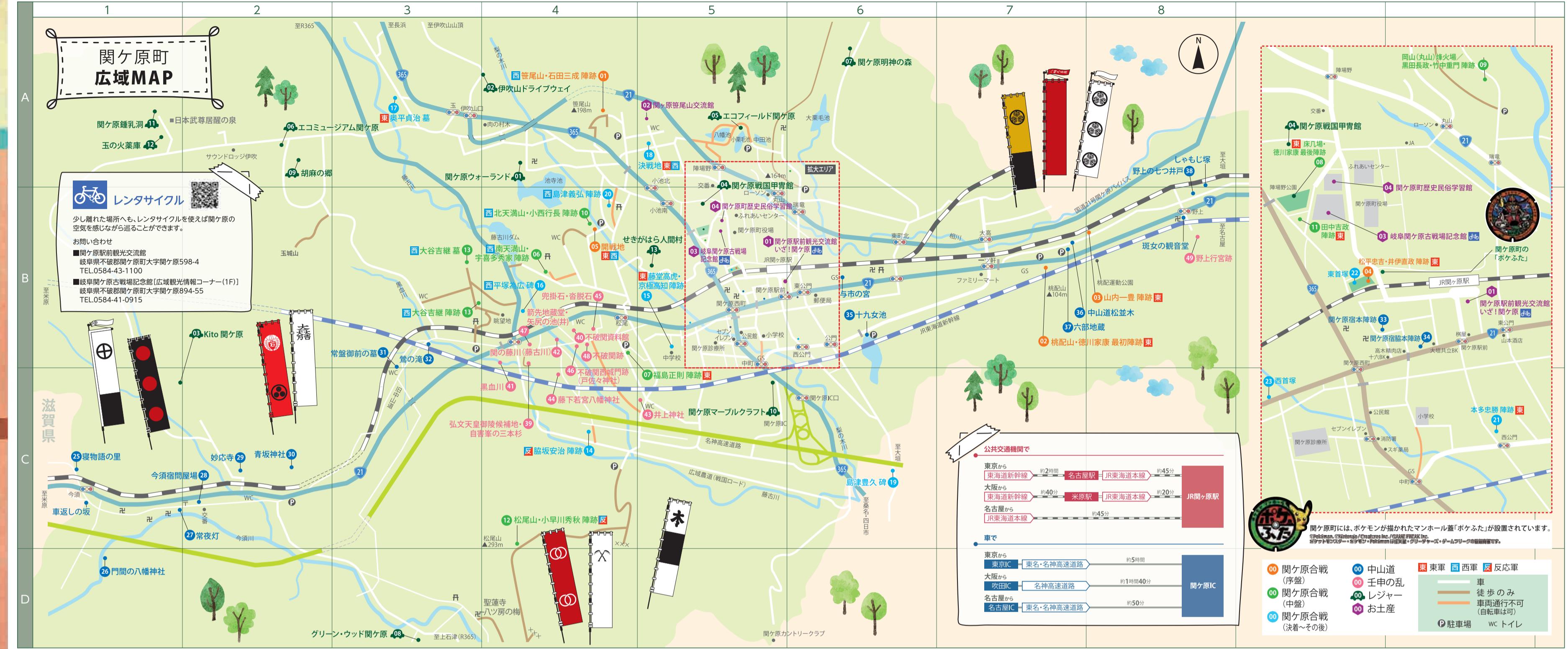
冬が長く、夜が長い東・北日本では暖房用、照営用、炊事用として家の中央の囲炉裏が活用されています。



関西 丸餅
餅
京都では「内満」を意味する丸餅が主流であり、京都の食文化の影響を受けた西日本でも広まっています。



江戸時代には、主な産地である北海道から大阪・堺までの西回航路が発達していたため多く流通しました。



中山道を歩く



古来より主要道路として、多くの人々が利用した中山道。今もなお、かつての名残が残っています。ここでは、北国街道・伊勢街道の分岐として賑わった関ケ原宿・今須宿の面影と、その史跡を紹介します。



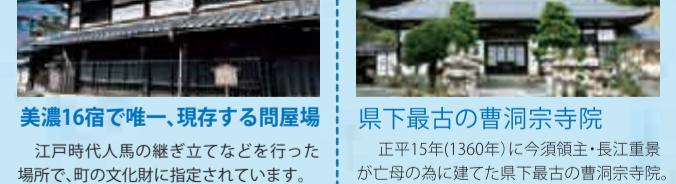
今須宿
美濃と近江の国境の宿場
今須宿は国境にあった宿場で、美濃国人と近江国人の人々が旅籠で寝ながら話ができるという「寝物語の里」といわれる宿場です。現在は問屋場の建物のみが残り、当時の今須宿の面影を伝えています。



近辺では見られない精巧な石灯籠
歴元年(1328年)に創建の由緒ある本殿。本殿は一社流造り。町の文化財に指定されています。

26 間門の八幡神社

関ケ原町今須152 D-1



美濃16宿で唯一、現存する問屋場

江戸時代馬の蹄が立てるなどを行なった場所で、町の文化財に指定されています。

28 今須宿問屋場

関ケ原町今須3447 C-2

今須城主・長江重景の祖先、鎌倉五郎景政を祀った神社。

30 青坂神社

関ケ原町今須3574-1 C-2

牛若丸を追う常盤御前は、この山脈に捕らえられ、殺されたといわれています。

31 常盤御前の墓

関ケ原町中山山中532 B-3



関ケ原宿
美濃16宿で最も栄えた宿場
北国街道と伊勢街道の分岐点にあたり、旅籠屋が33軒もある関ケ原宿は、美濃16宿で最も栄えたといわれています。本陣の前にあったスタジオの大木、脇本陣の門のほか、野地内には中山道唯一の松並木が残っています。



今須峠を行く旅人のオアシス
宿場を代表する、高級旅館跡
名前が宿泊する本陣ともいわれる施設。古木「スタジオ」が往時を偲ばせています。

32 鶯の滝

関ケ原町今須342 C-3



昔京都の間屋が金比羅さんに磨掛して無くした荷物が見つかったおれに建った200年の石灯籠。

27 常夜灯

関ケ原町今須3432 C-3



近辺では見られない精巧な石灯籠

歴元年(1328年)に創建の由緒ある本殿。本殿は一社流造り。町の文化財に指定されています。

28 今須宿問屋場

関ケ原町今須3447 C-2

今須城主・長江重景の祖先、鎌倉五郎景政を祀った神社。

30 青坂神社

関ケ原町今須3574-1 C-2

牛若丸を追う常盤御前は、この山脈に捕らえられ、殺されたといわれています。

31 常盤御前の墓

関ケ原町中山山中532 B-3

つる式の井戸を再現した休憩スポット。特に水を汲む事が出来ます。

38 野上の七つ井戸

関ケ原町大字野上440 B-8

古代兵士の喉を潤した場所

壬申の乱時に水を汲む事が出来ます。

47 箭先地蔵堂・矢尻の池(井)

関ケ原町大字野上275-2 B-4

古代の皇子が過ごした場所

大海人皇子が壬申の乱時に過ごしたと言われる場所として残っています。

49 野上行宮跡

関ケ原町大字野上1231-2 B-8

古代の皇子が過ごした場所

大海人皇子が壬申の乱時に過ごしたと言われる場所として残っています。

50 関ケ原駅前

関ケ原町大字野上1231-2 B-8

関ケ原駅前

JR関ケ原駅

関ケ原駅前

関ケ原駅前